

図書館学生インターンシップ 企画展示

世界を翻弄した更紗

～その起源と伝播について～

更紗の起源と現在

更紗とは、インド（インダス文明）を起源とする、色と模様等特色のある綿織地のこと。手描きや木版などで植物・花・人物・鳥獣などの模様を描く。もともと木綿は、天然染料では藍・茶・くすんだ黄色以外は染まりにくい性質を持つが、インドでは古くから赤や紫などの華やかな色を染める技術を完成させていた。

インド更紗は、17世紀初頭のオランダ東インド会社によって世界中に販路をもち、珍奇で華麗な染色として喜ばれた。伝来した国により、独自の発展を遂げているため、呼び名や手法、柄ゆきが変わる。産業革命後は機械による大量生産や合成染料、シルクや合繊素材などによるものも含め「更紗」と呼ばれ、現在は木綿地に限らず、ポリエステル生地なども多く使われている。

日本に伝来してきた更紗

日本に更紗が伝わったのは、16世紀中旬の室町時代と言われている。南蛮船により、金襴、緞子、錦等の最高級織物と共に持ち込まれたインド更紗は、「名物裂」と称されて茶人に珍重された。当時、麻や絹が主流であった日本では、色鮮やかで異国情緒のある模様染めの綿布は注目を集めた。小さな端裂でも希少価値が高く、茶道具を入れる袋物等に愛用された。

17～18世紀の鎖国下でも、オランダにより、ヨーロッパ更紗、ジャワ更紗、ペルシャ更紗など各国の特徴を持つ舶来更紗が持ち込まれて広まった。日本で製作された更紗は「和更紗」といい、独自の花鳥風月を表現した。17世紀初めには「鍋島更紗」、江戸後期には色糊を使って染める「天草更紗」、「長崎更紗」、型紙の摺込みによる「京更紗」などが各地で製作された。模様は手書きや木版の他に「伊勢型紙」を用いた型染がある。

マリー・アントワネットに愛された更紗

鮮やかさと天然染料の優しげな印象を兼ね備え、細かな花柄模様が愛らしいインド更紗は、それまで織りや刺繍でしか表現できなかった細かな花柄紋や植物紋織りを、軽くて扱いやすい綿素材で実現し、マリー・アントワネットや当時の女性たちからの絶大なる人気を誇った。

インド更紗は長らく輸入に頼っていたが、人気の高まりから輸入（1700）及び使用（1720）の禁令対象となった。禁令が解かれた1759年以降、アントワネットに献上するため、クリストフ＝フィリップ・オーベルカンフがヴェルサイユ近郊のジュイ・アン・ジョザスにこの布のための工場を建設し、トワル・ド・ジュイ（ジュイ更紗）が発展した。アントワネットは、優しく心地よい肌触りのトワル・ド・ジュイを使用したドレスや家具調度品をこよなく愛した。

<参考文献>

タイトル	著者名	出版者, 出版年	請求記号	配架場所
マリー・アントワネット ファッションで世界を変えた女	石井美樹子	河出書房新社, 2014.6	288/114	1階南開架
マリー・アントワネットの衣裳部屋	内村理奈	平凡社,2019.10	383/1808	1階南開架
新・田中千代服飾事典	田中千代	同文書院,1991.10	593/1570	2階北参考図書
図解服飾用語事典	杉野芳子	ブティック社(発売), 2003.5	593/1852	2階北参考図書
更紗の旅路:愛称の追跡	糠沢鬼平	現代創造社, 1984.5	753/149	2階南開架
染織の美, 2 1979年秋	吉岡幸雄	京都書院,1979.12	753/153/2	2階南開架
インド染織美術	畠中光享	京都書院,1993.6	753/238	2階南開架
図解染織技術事典	田中清香, 土肥悦子	理工学社,1990.4	753/313	2階北参考図書
テキスタイル用語事典	成田典子	テキスタイル・ツリー, 2012.2	753/397	2階南開架

< 展示資料 >

染織の美 2 (1979年秋) 更紗

吉岡幸雄編, 京都書院, 1979.12

(753/153/2) 2階南閲覧室

マリー・アントワネットの衣裳部屋

内村理奈著, 平凡社, 2019.10

(383/1808) 1階南閲覧室

インド染織美術 : 畠中光享コレクション

畠中光享編著, 京都書院, 1993.6

(753/238) 2階南閲覧室

テキスタイル用語辞典

成田典子著, テキスタイル・ツリー, 2012.2

(753/397) 2階南閲覧室